みつぎ便り

第178号　7月号　令和3年7月1日発行　http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体**「見次の会」**です

アメリカザリガニ

現在、国内に棲むザリガニの中で固有種のニホンザリガニよりずっと知名度が高いのがアメリカザリガニ（アメザリ）です。

　アメザリは、食用ガエルの餌にするため、一九二七年にアメリカのルイジアナから鎌倉市の養殖場に移入されました。強い繁殖力で、ほぼ全国の池や川、沼に広がり定着しました。

　ザリガニは藻や水草も食べますが基本的に肉食です。魚や虫などを食べます。長い触角のセンサーで離れたエサのにおいを捉えます。ふ化してから一年程の間に十数回脱皮を繰り返し大きくなり、成体になってからも年二回ペースで脱皮します。脱皮中や脱皮直後は、動けず体も柔らかいため、外敵はもちろん仲間の共食いの犠牲となることもあります。

　見次公園では、湧き水のあたりのデッキ下で目撃しました。はたしてどれ位の個体数が見次の池に棲息しているのでしょうか。

（隆）

クワ（桑）

池の北側の集会室と電話ボックスの間のツツジの植え込みの中に、数本のクワの木が自生しています。

　明治から昭和の初期にかけて日本の近代化を推し進めた主要な輸出産業が生糸の生産と絹織物でした。

　この生糸の原料となる繭玉をつくるのが「お蚕様」で、蚕の餌がクワの葉で、当時はどこの農村でも畑にクワを植え、農家の二階や納屋に蚕棚をつくり「お蚕様」を飼い、繭玉を生産しており、小説「ああ野麦峠」で知られる女工哀史の舞台となりました。

　クワは中国大陸の山地を原産とする落葉高木植物で、植物分類学で、「マグワ」のことでクワ科、クワ族の植物で五月下旬ころに黒く熟した実をつけます。

　「山の畑の桑の実をつまんで食べたのは、いつの日か」と、歌われるほどポピュラーな植物でした。現代では歴代の皇后陛下の宮中行事として、ニュースで報じられる程度となっています。

（安）